

学校教育目標 『知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成』

学校経営方針 「毎日が楽しく学びのある学校にしよう」

- ① 地域や児童の実態をふまえた効果的な教育課程の編成と実施に努める。
- ② より良い授業づくりと学習環境の整備を通して、確かな学力の育成に努める。
- ③ 生活規律を大切に、思いやりの心を育む学級・学年づくりに努める。
- ④ 児童の体力向上・健康増進に努める。
- ⑤ 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の実施に努める。
- ⑥ 児童の安全・安心な生活を守り、保護者や地域に開かれた学校づくりに努める。

1 全体評価

- ・「教職員自己評価」「保護者アンケート」「児童アンケート」の3つのアンケートを実施した。結果は、A評価（とても思う）とB評価（思う）を合わせて肯定的な評価として捉えることとした。その中で8割を切る質問項目については課題と捉え改善策を考え、実施していく。
- ・全般的に教職員・児童・保護者のアンケート結果はどの項目も肯定的な評価結果であり、全体的に見て、本校教育の充実をうかがえる。
- ・児童アンケートでは、「学校が楽しいですか」「授業が楽しいですか」の質問項目にほとんどの児童が肯定的評価をしている。このことから、概ね児童は楽しい学校生活を送っていると言える。しかし、少数ではあるが否定的な評価もある。このことについては、重要課題として適切な支援指導を行っていく。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	・「学校教育目標・学校経営」については、肯定的評価がすべての項目でほぼ100%であった。学校教育目標を踏まえた教育活動が計画的に行われている。また、学校全体では、PDCAサイクルを生かしながら、教育活動が展開されている。個人によるPDCAサイクルについては、さらに取り組みを進める必要がある。
改善策	・PDCAサイクルについては、今後も行事や活動ごとに教職員・児童・保護者のアンケートや振り返りを実施し、全職員で課題と改善策を明確にし、次の教育活動に生かすことに組織的に取り組んでいきたい。日々の授業、学校行事等の教育活動においてPDCAサイクルができるように、シートを利用し、多忙化につながらないようなPDCAサイクルを構築していく。

II 学校運営について

達成状況	・学校運営についても、すべての項目で肯定的評価がほぼ100%であった。特に「職務上の報告・連絡・確認」の項目は、A評価が8割を超えている。また、「個人情報の適切な管理」や「校務分掌の機能」についてはA評価が10%以上増加し、昨年度課題とされた「危機管理マニュアルの理解」についてもA評価が8%増加した。一方、「校内研究への主体的な関わり」についてはさらに努力を要する。
改善策	・今後も危機管理マニュアルへの理解を深め、PDCAサイクルを生かしてより良いものになるよう、全職員で取り組んでいく。 ・校内研究に、全職員が主体的に関われるような工夫をさらに進めていく。

III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況	・教職員の自己評価では、学習指導については、肯定的評価がすべての項目で100%であった。また、10項目の中でA評価が最も高い項目が7項目となり、教職員が意欲的に学習指導に取り組んでいることが伺える。昨年度課題とされた「評価規準と評価方法を明確にした授業」「学びの意欲を喚起する授業」についても、A評価が10%以上増加した。一方、「質問や発言の出る授業」については全体的にやや減少したので、今後努力を要する。
	・児童・保護者アンケートからは、学習活動を楽しんでいる児童の姿が見えてくる。「先生はよく勉強を教えてくれる」はほぼ100%、保護者の「学力向上への取り組み」の評価も上昇し、教師の指導の熱意が伝わっていることがよくわかる。一方、「宿題を忘れずしている児童」と「自主学習をしている児童」は昨年度より5%前後減少した。
	・児童の約半数、保護者の7割以上が読書時間は30分未満と答えており、家庭での読書習慣の確立には課題がある。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「質問や発言のでる授業」には発問内容・方法の工夫や児童の発言を瞬時に見極める力等が必要となる。校内研究も含めた授業づくりの研究を通して、改善していきたい。また改善傾向にあるものの更に向上を目指すため、P D C Aサイクルを授業に生かし、学習課題と共に評価規準も明確にする授業づくりを実施していく。 ・「玉幡小学校学習ルール」「家庭学習の手引き」「がんばるカード」のねらいやこれらの効果について、保護者にさらに周知し、理解を深め、学校と家庭が両輪となってこれらを活用できるようにしたい。よりよい取り組みがなされるよう、さらなる改善と工夫を行っていく。 ・学校での朝読書・読み聞かせ・図書の時間などの取り組みが家庭での読書につながるように、工夫・改善を図っていきたい。
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価では、生徒指導については、ほとんどの項目で肯定的評価が100%であった。また、7項目の中でA評価が最も高い項目が5項目となり、教職員が熱心に生徒指導に取り組んでいることが伺える。「職員間での生徒指導上の情報の共有」「日々の生活指導」については、A評価が特に高い。また、「問題行動の早期発見・早期対応」「実態に応じた生き方教育」については、昨年度より20%前後A評価が増加したが、より一層の取り組みの余地を残す。 ・「きまりを守る」「清掃をしっかりとる」「あいさつをする」「委員会活動にしっかりと取り組む」などについて、児童の肯定的回答が9割を超えている。依然として、児童の規範意識は高く、学校生活にまじめに取り組む児童の姿が見える。 ・多くの児童や保護者が「困ったときに相談できる友達や先生がいる」と回答している。一方で、「あまりいない」「いない」との回答もあり、看過できない。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、きまりを守り、「甲斐っ子の宝」「日本一のろうか」を意識して頑張っている児童の姿を認め、褒めながら、学校全体の自尊感情を育てていきたい。 ・職員一人一人が児童の問題行動への感受性をさらに高め、保護者と連携をとりながら、教職員がチームとなり、早期発見・早期解決を図っていく。また、問題の未然防止のための取り組みもしていく。 ・生徒指導委員会・特別支援委員会の機能をさらに高め、Q-U やいじめアンケートも活用しながら、課題のある児童に対して、きめ細かな対応をしていく。また、SC・SSW・家庭児童相談員など関係機関との連携をさらに強めて、児童指導にあたっていく。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価において、地域との連携については、肯定的評価が高い。特に「お便りやHPでの広報」についてはA評価が高い。「地域の教育力を活かす指導」「保護者のPTA活動へ協力」「学習指導や生活指導への保護者の協力」もA評価が昨年度より10%以上上昇した。一方、「保護者の要望などの情報収集」には、さらなる改善が期待される結果となった。 ・保護者の肯定的回答が全般に高く、授業参観、学校開放日等により、学校の様子が保護者によく伝わっていることがわかる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも、おたよりやHP、授業参観や学校行事を通じて保護者や地域に情報を提供してきた。これからも学校の思いを積極的に伝えるとともに、PTA・学校評議員会・関係者評価委員会での話し合いやアンケートの実施により保護者や地域の意見・要望を積極的に取り入れていきたい。 ・各担任が、連絡帳や電話でのやりとり、家庭訪問等をしながら、保護者と丁寧に関わってきた。これらを引き続き行いながら、保護者との信頼関係を築いていく。 ・学校応援団「チーム たまはた」の積極的な活用を通して、保護者・地域との連携を深めたり、ネットワークを広げたりしていきたい。外部団体のリーダーと連絡調整をするなど、学校にもボランティアの方々にも負担にならないような運用を模索していきたい。
3 まとめ <成果>・学校教育目標、学校経営方針の全職員の共通理解のもと、適切な学校運営ができています。 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域と学校が良好な関係を築いている。連携協力のもと、人間性豊かな児童の育成を目指し、学校教育活動が推進されている。 ・学校生活全般にわたり、まじめに取り組む児童が育っている。 <課題>・児童の意欲を喚起し、対話的な授業づくりに取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での自主学習等の取り組みのさらなる充実を図る。 ・読書活動を推進する。 ・学校応援団「チームたまはた」の活用や授業や行事を積極的に公開することを通して、開かれた学校づくりに取り組む。 ・すべての子が楽しく登校できる学校・学級づくりをさらに推進する。 	

